

(仮称) 八竜風力発電所更新計画  
に係る環境影響評価準備書についての  
意見の概要及び事業者の見解

令和 3 年 12 月

株式会社 エムウインズ八竜

## 目 次

|                                                          |   |
|----------------------------------------------------------|---|
| 第 1 章 環境影響評価準備書の公告及び縦覧.....                              | 1 |
| 1.1 環境影響評価準備書の公告及び縦覧.....                                | 1 |
| (1) 公告の日 .....                                           | 1 |
| (2) 公告の方法 .....                                          | 1 |
| (3) 縦覧場所 .....                                           | 1 |
| (4) 縦覧期間 .....                                           | 2 |
| (5) 縦覧者数 .....                                           | 2 |
| 1.2 環境影響評価準備書についての説明会の開催.....                            | 3 |
| (1) 公告の日及び公告方法.....                                      | 3 |
| (2) 開催日時 .....                                           | 3 |
| (3) 開催場所 .....                                           | 3 |
| (4) 来場者数 .....                                           | 3 |
| 1.3 環境影響評価準備書についての意見の把握.....                             | 4 |
| (1) 意見書の提出期間.....                                        | 4 |
| (2) 意見書の提出方法.....                                        | 4 |
| (3) 意見書の提出状況.....                                        | 4 |
| 第 2 章 環境影響評価準備書について提出された環境保全の見地からの意見の概要及び<br>事業者の見解..... | 5 |

## 第 1 章 環境影響評価準備書の公告及び縦覧

### 1.1 環境影響評価準備書の公告及び縦覧

「環境影響評価法」第 16 条の規定に基づき、環境の保全の見地からの意見を求めるため、環境影響評価準備書（以下「準備書」という。）を作成した旨及びその他事項を公告し、準備書及びその要約書を公告の日から起算して 1 月間縦覧に供した。

#### (1) 公告の日

令和 3 年 10 月 22 日（金）

#### (2) 公告の方法

##### ①日刊新聞紙による公告

下記日刊紙に「公告」を掲載した。

- ・ 令和 3 年 10 月 22 日（金）付 秋田魁新報の全県版（別紙 1 参照）

##### ②地方公共団体の広報によるお知らせ

下記広報紙に「お知らせ」を掲載した。

- ・ 令和3年10月号 広報みたね（別紙2-1参照）
- ・ 令和3年10月号 広報おおがた（別紙2-2参照）
- ・ 令和3年10月号 広報おが（別紙2-3参照）

##### ③インターネットによるお知らせ

令和3年10月22日（金）から、下記のウェブサイトに掲載した。

- ・ 弊社が運営するホームページ（別紙3-1参照）
- ・ 秋田県が運営するホームページ（別紙3-2参照）

#### (3) 縦覧場所

関係自治体庁舎の計 4 箇所において縦覧を行った。また、インターネットによる電子縦覧を行った。

##### ①関係自治体庁舎での縦覧

- ・ 三種町役場 （秋田県山本郡三種町鵜川字岩谷子 8）
- ・ 大潟村役場 （秋田県南秋田郡大潟村字中央 1-1）
- ・ 男鹿市役所 （秋田県男鹿市船川港船川字泉台 66-1）
- ・ 男鹿市役所 若美支所（秋田県男鹿市角間崎家ノ下 452）



縦覧の状況（例）

## ②インターネットの利用による縦覧

- ・株式会社エムウインズ ホームページ  
(<https://www.meidensha.co.jp/win/>)
- ・秋田県 ホームページ（弊社ホームページへのリンクを掲載）  
(<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/45171>)

## (4) 縦覧期間

- ・縦覧期間：令和3年10月22日（金）から令和3年11月22日（月）まで  
（土・日曜日、祝日を除く開庁時）
- ・縦覧時間：各庁舎の開館時間に準じた。インターネットの利用による縦覧については、上記の期間、終日アクセス可能な状態とした。

## (5) 縦覧者数

縦覧者数は3名（男鹿市内1名、秋田県内2名）であった。

（内訳）

- ・三種町役場 企画政策課：1名
- ・大潟村役場 生活環境課：1名
- ・男鹿市役所 若美支所：0名
- ・男鹿市役所 企画政策課：1名

## 1.2 環境影響評価準備書についての説明会の開催

環境影響評価法第 17 条の規定に基づき、準備書の記載事項を周知するための説明会を開催した。

説明会についての公告、開催日時及び開催場所等は以下のとおりである。

### (1) 公告の日及び公告方法

説明会の開催公告は、環境影響評価準備書の縦覧等に関する公告と同時に行った。

(別紙 1、別紙 2、別紙 3 参照)

### (2) 開催日時

①男鹿市 若美農業者トレーニングセンター：令和 3 年 11 月 9 日（火） 18 時～19 時

②三種町 八竜農村環境改善センター：令和 3 年 11 月 10 日（水） 18 時～19 時 30 分

### (3) 開催場所

①男鹿市 若美農業者トレーニングセンター（秋田県男鹿市野石大場沢下 1-48）

②三種町 八竜農村環境改善センター（秋田県山本郡三種町鵜川岩谷子 8）

### (4) 来場者数

①男鹿市 若美農業者トレーニングセンター：1 名

②三種町 八竜農村環境改善センター：10 名

### 1.3 環境影響評価準備書についての意見の把握

環境影響評価法第18条の規定に基づき、環境の保全の見地から意見を有する者の意見の提出を受け付けた（別紙4）。

#### （1）意見書の提出期間

令和3年10月22日（金）から令和3年12月6日（月）まで  
（郵送の受付は当日消印まで有効とした。）

#### （2）意見書の提出方法

環境保全の見地からの意見について、以下の方法により受け付けた。

- ・縦覧場所に設置した意見書箱への投函
- ・書面による弊社への郵送

#### （3）意見書の提出状況

意見書の提出は3通（関係市町村外1通、秋田県外2通）、意見総数は33件であった。

## 第 2 章 環境影響評価準備書について提出された環境保全の見地からの意見の概要及び事業者の見解

環境影響評価法第 18 条の規定に基づく、準備書について提出された環境保全の見地からの意見の概要及びこれに対する事業者の見解は、次のとおりである。なお、意見は全て原文の表現のままで記載した。

### 準備書について提出された意見の概要及び事業者の見解（1）

東京都在住 A 氏

| No. | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 事業者の見解                                                                                                           |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | <p>■1. 意見は要約しないこと</p> <p>意見書の内容は、事業者「株式会社エムウインズ八竜」及び委託先「株式会社東洋設計」の判断で要約しないこと。要約することで貴社側の作為が入る恐れがある。事業者見解には、意見書を全文公開すること。また同様の理由から、以下に続く意見は「ひとからげ」に回答せず、「それぞれに回答すること」。さらに本意見書の内容について「順番を並び替えること」も認めない。</p>                                                                                          | <p>ご意見は要約等をせずに全文を記載致しました。</p>                                                                                    |
| 2   | <p>■2. 死骸調査（自主）で確認されたヒナコウモリ科の死骸について</p> <p>資料 1-16～17 に「ヒナコウモリ科の死骸が 1 個体確認されたが、死後経過時間は 1 か月以上と考えられ、死因などは不明であった」、「2019/4/12、風車No.18、距離 10m」、「ヒナコウモリ科の死骸は風力発電施設点検時に事業者が確認した」とある。また資料 1-14 に調査期間は「2019 年 4 月 8 日～14 日にかけて 1 週間連続で実施した」とある。</p> <p>①確認された死骸の前腕長（mm）を記載して頂きたい。前腕長はコウモリ類の種の同定上重要である。</p> | <p>現地計測の結果、前腕長は 55mm 程度です。</p>                                                                                   |
| 3   | <p>②性別、年齢を記載していただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>死後経過時間は 1 ヶ月以上と考えられ、性別、年齢については不明です。</p>                                                                       |
| 4   | <p>③死骸の種名・死因が不明ならば、見解を「コウモリ類の専門家」に確認すべきではないのか？</p>                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>コウモリ類に精通した調査員が確認しましたが、死後経過時間は 1 ヶ月以上と考えられ、死骸の状態が悪かったため、種名及び死因の特定には至りませんでした。</p>                               |
| 5   | <p>④死骸がブレード回転範囲の下（10m）にあるならば、バットストライク（パロトラウマ）の可能性が高い。</p>                                                                                                                                                                                                                                          | <p>死骸がブレード回転範囲の下で確認されたため、バットストライクの可能性も考えられます。</p> <p>この事も踏まえ、今回の更新にあたって死骸が確認された既設 18 号機付近には風車建設を回避した計画としました。</p> |

| No. | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 事業者の見解                                                                                                                                                             |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6   | <p>⑤4月以外の時期にもバットストライクは発生する可能性がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>4月の連続調査の他、生物調査員による年間を通じた死骸調査についても実施しており、コウモリの死骸は確認されておりません。</p> <p>今回の更新にあたって死骸が確認された既設18号機付近の風車建設を回避した計画としました。コウモリ類への影響へ十分配慮した事業であると考えております。</p>               |
| 7   | <p><b>■3. コウモリ類 (15～25kHz) の影響予測 (ブレード・タワー等への接近・接触) が不適切</b></p> <p>P694「ただし、本事業において採用予定の風車機種のカットイン風速以下となる 3.0m/s 以下での確認が 6割程度を占めていること、飛翔頻度が高くなる時期は 7～8 月に限定されることが示されている。また、既設風車での死骸調査では、コウモリ類の死骸はほとんど確認されていないことから、ブレード・タワーへの接近・接触による影響は小さいと考えられる。」とある。</p> <p>しかし、カットイン風速以上（残り 4 割）の影響は残ったままなので、「影響は小さい」とは言えない。</p>                    | <p>4月の連続調査の他、生物調査員による年間を通じた死骸調査についても実施しており、コウモリの死骸は確認されておりません。</p> <p>今回の更新にあたって死骸が確認された既設18号機付近の風車建設を回避した計画としました。コウモリ類への影響へ十分配慮した事業であると考えております。</p>               |
| 8   | <p><b>■4. コウモリ類 (15～25kHz) の影響予測 (ブレード・タワー等への接近・接触) が不適切 2</b></p> <p>P694「ただし、本事業において採用予定の風車機種のカットイン風速以下となる 3.0m/s 以下での確認が 6割程度を占めていること、飛翔頻度が高くなる時期は 7～8 月に限定されることが示されている。また、既設風車での死骸調査では、コウモリ類の死骸はほとんど確認されていないことから、ブレード・タワーへの接近・接触による影響は小さいと考えられる。」とある。</p> <p>仮に「飛翔頻度が高くなる時期は 7～8 月に限定される」としても、「7～8 月」に影響を低減しない限り「影響は小さい」とは言えない。</p> | <p>ご指摘の保全措置の他、4月の連続調査の他、生物調査員による年間を通じた死骸調査では、コウモリの死骸は確認されておりません。</p> <p>今回の更新にあたって死骸が確認された既設18号機付近の風車建設を回避した計画としました。これらを総合的に考慮し、コウモリ類への影響へ十分配慮した事業であると考えております。</p> |



| No. | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 事業者の見解                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9   | <p>■5. コウモリ類（15～25kHz）の影響予測（ブレード・タワー等への接近・接触）が不適切3</p> <p>P694「ただし、本事業において採用予定の風車機種のカットイン風速以下となる 3.0m/s 以下での確認が 6 割程度を占めていること、飛翔頻度が高くなる時期は 7～8 月に限定されることが示されている。また、既設風車で死骸調査では、コウモリ類の死骸はほとんど確認されていないことから、ブレード・タワーへの接近・接触による影響は小さいと考えられる。」とある。</p> <p>そこで P307「死骸調査」をみると、「定点カメラ調査」が「令和 2 年 3～5 月」、「無人撮影法」が「令和 2 年 5 月 21 日～令和 3 年 1 月 14 日」とある。また、資料 1-14 の死骸調査（自主）には、調査期間は「2019 年 4 月 8 日～14 日にかけて 1 週間連続で実施した」、資料 1-16～17 に「ヒナコウモリ科の死骸が 1 個体確認されたが、死後経過時間は 1 か月以上と考えられ、死因などは不明であった」、「2019/4/12、風車No.18、距離 10m」、「ヒナコウモリ科の死骸は風力発電施設点検時に事業者が確認した」とある。また資料 1-14 に調査期間は「2019 年 4 月 8 日～14 日にかけて 1 週間連続で実施した」とある。</p> <p>①「死骸調査では、コウモリ類の死骸はほとんど確認されていない」とあるが、実際には踏査による死骸調査（自主）は 4 月の 1 週間のみである（資料 1-14）。つまり、調査した月が 4 月の 1 週間だけだから、死骸はほとんど確認されていない」のであろう。</p> | <p>定点カメラによる死骸調査は、主に鳥類死骸の発生に関与すると考えられるスカベンジャー（中型哺乳類）の確認を狙ったものであり、コウモリ類の死骸確認を主として行ったものではありません。また、既設風力発電所では、自主的に実施した 1 週間の死骸調査に加え、NEDO 調査において、生物調査員による 1 年間 2 週間に 1 回、計 24 回の死骸調査を実施しており、その際にもコウモリ類の死骸は確認されておりません。また、定点カメラによる死骸調査においても、スカベンジャーがコウモリ類の死骸を咥えた様子は確認されておりません。</p> |
| 10  | ②「定点カメラ調査」の実施時期は「令和 2 年 3～5 月」であり、6 月以降の調査をしていないので「死骸はほとんど確認されていない」のであろう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <p>定点カメラ調査及び無人撮影法は、主に鳥類死骸の発生に関与すると考えられるスカベンジャー（中型哺乳類）の確認を狙ったものであり、コウモリ類の死骸確認を主として行ったものではありません。なお、定点カメラによる死骸調査においても、スカベンジャーがコウモリ類の死骸を咥えた様子は確認されておりません。</p>                                                                                                                  |
| 11  | ③コウモリの体は小さいので、「無人撮影法」のカメラに死骸は映らないのではないのか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 12  | ④①～③の理由により、「コウモリ類の死骸はほとんど確認されていないことから、ブレード・タワーへの接近・接触による影響は小さい」とは言えない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| No. | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 事業者の見解                                                                                                      |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13  | <p><b>■6. コウモリ類（15～25kHz）の影響予測（ブレード・タワー等への接近・接触）が不適切 4</b></p> <p>以上（■3、■4、■5）の理由から、コウモリ類（15～25kHz）の影響予測（ブレード・タワー等への接近・接触）は根拠不十分で成立しない。よって、本準備書の記載内容は「適切とは言えない」。</p>                                                                                                                                                       | <p>（■3、■4、■5）の見解から、コウモリ類（15～25kHz）の影響予測（ブレード・タワー等への接近・接触）に関する記載内容は適切と考えております。</p>                           |
| 14  | <p><b>■7. 「事後調査」は信用できない</b></p> <p>①事後調査結果について住民は意見書を出せない。</p> <p>②事後調査結果を公正に審査する第三者委員がいない。</p> <p>③事業者側が擁立する専門家は事業者の利害関係者である可能性が高いので信用できない。</p> <p>④仮に事後調査でコウモリの死骸が確認されても、事業者が追加の保全措置をする義務はなく、罰則もない。</p> <p>①～④の理由から、「事後調査」は信用できない。</p>                                                                                   | <p>既設風車で実施した事後調査では鳥類の死骸をしっかりと確認できており、これまで同様、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（平成 27 年 環境省）に参考に事後調査計画を検討しています。</p> |
| 15  | <p><b>■8. コウモリ類の死骸探索調査について</b></p> <p>コウモリの死骸はスカベンジャーに持ち去られて 3 日程度で消失することが明らかとなっている*。よって、</p> <p><u>①コウモリ類の死骸探索は、1 基あたり 3 日～7 日間隔の頻度で行っていただきたい。</u></p> <p><u>②死骸探索調査は日の出より開始して頂きたい。</u></p> <p>*平成 28 年度～平成 29 年度成果報告書 風力発電等導入支援事業 環境アセスメント調査早期実施実証事業 環境アセスメント迅速化研究開発事業（既設風力発電施設等における環境影響実態把握 I 報告書）P213. NEDO, 2018.</p> | <p>既設風車で実施した事後調査では鳥類の死骸をしっかりと確認できており、これまで同様、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（平成 27 年 環境省）に参考に事後調査計画を検討しています。</p> |
| 16  | <p><b>■9. コウモリ類の死骸探索調査について 2</b></p> <p>前述の意見について事業者は「生物調査員による事後調査は月に 2 回とし、あと 2 回は定期点検のついでにおこなう」と回答するかもしれないが、定期点検をする者と生物調査員とではコウモリ類の死骸発見率が全く異なることが予想される。仮に、定期点検者が「点検のついで」に調査を行うのであれば（定期点検のついでにコウモリ類の死骸を見つけるのは、物理的に難しいだろうが）、「コウモリ類の死骸消失率」、「定期点検者と生物調査員、それぞれのコウモリ類の死骸発見率」を調べた上で、「適切な調査頻度を客観的」示して頂きたい。</p>                   | <p>既設風車で実施した事後調査では鳥類の死骸をしっかりと確認できており、これまで同様、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（平成 27 年 環境省）に参考に事後調査計画を検討しています。</p> |

| No. | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 事業者の見解                                                                                                    |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 17  | <p>■10. コウモリ類の死骸探索調査は有資格者が実施すること</p> <p>コウモリ類の体は非常に小さく、地面に落ちた死骸は、そう簡単には見つけられない。コウモリ類の死骸探索は、観察力と集中力が必要とされる専門的な調査であり、十分な経験を積んだプロフェッショナル（生物調査員）が実施するべきである。よって、コウモリ類の死骸探索調査については、「すべて」生物分類技能検定1級（哺乳・爬虫・両生類分野）等の有資格者が実施し、「透明性」示して頂きたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>コウモリ類の死骸調査については、十分な経験を積んだ生物調査員により実施致します。</p>                                                           |
| 18  | <p>■11. 事後調査（死骸探索調査）は徹底的に実施すること</p> <p>国内事例によればバットストライクは春季（4月）※1や秋季（10月下旬）※2にも確認されている。よってコウモリ類の死骸探索調査は、『4月から11月まで徹底的に実施』して頂きたい。</p> <p>※1「高森高原風力発電事業 環境影響評価報告書」（平成31年4月、岩手県）</p> <p>※2「石狩湾新港風力発電所環境影響評価事後調査報告書」（2020年2月、コスモエコパワー株式会社）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>既設風車で実施した事後調査では鳥類の死骸をしっかりと確認できており、これまで同様、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（平成27年 環境省）に参考に事後調査計画を検討しています。</p> |
| 19  | <p>■12. コウモリ類の事後調査はナセルに自動録音バットディテクターを設置すること</p> <p>コウモリの活動量と気象条件は、死亡の原因を分析する上で必要である。コウモリの事後調査は、ヨーロッパのガイドライン※に準拠し「コウモリの活動量」、「気象条件」、「死亡数」を調べることに。「コウモリの活動量」を調べるため、ナセルに自動録音バットディテクターを設置し、日没1時間前から日の出1時間後まで毎日自動録音を行い、同時に風速と天候を記録して頂きたい。</p> <p>※「風力発電事業におけるコウモリ類への配慮のためのガイドライン 2014年版”Guidelines for consideration of bats in wind farm projects Revision 2014” EUROBATS Publication Series No.6」,<br/> <a href="https://www.eurobats.org/sites/default/files/documents/news/Publication_No_6_Japanese.pdf">（https://www.eurobats.org/sites/default/files/documents/news/Publication_No_6_Japanese.pdf）</a></p> | <p>既設風車で実施した事後調査では鳥類の死骸をしっかりと確認できており、これまで同様、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（平成27年 環境省）に参考に事後調査計画を検討しています。</p> |
| 20  | <p>■13. コウモリの保全措置（低減措置）は「カットイン風速の値を上げること及びフェザリング」が現実的</p> <p>「コウモリの活動期間中にカットイン風速（発電を開始する風速）の値を上げること及び低風速時にフェザリング（風力発電機のブレードを風に対して並行にし回転を止めること）すること」がバットストライクを低減できる、「科学的に立証された保全措置※」である。益獣が減れば住民に不利益が生じる。よって、必ず実施して頂きたい。</p> <p>※Effectiveness of Changing Wind Turbine Cut-in Speed to Reduce Bat Fatalities at Wind Facilities Final Report, Edward B. Arnett and Michael Schirmacher. 2010</p>                                                                                                                                                                                                            | <p>事後調査の結果を踏まえて、検討します。</p>                                                                                |

準備書について提出された意見の概要及び事業者の見解（2）

秋田県能代市在住 B 氏

| No. | 意見の概要                                                                                                                                                                                              | 事業者の見解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | <p>既設風車撤去では地表 1m 以下を残すとしているが、明らかに問題である。</p> <p>理由として雷のサージ分流としているが、説明会で、どの程度の低下になるか、数字で何ら答弁されなかった。住民説明会を軽視している。これが、アセスの最終段階でもの御社の態度なのか？</p> <p>本当の理由は、撤去費用の先送りと工期短縮ではないのか。この件は秋田県に公開質問状を提出している。</p> | <p>説明会においては、秋田県生活環境部環境整備課との協議資料の一部を用いて以下のご説明をしております。</p> <p>①次の発電所更新時には残置した杭を全て撤去することで秋田県と覚書を交わす予定である。</p> <p>②基礎地中杭は有効活用できるものである（産業廃棄物ではない）。</p> <p>③連接接地については、既設風車の地中杭も利用して 25 基を並列するので、対地電圧上昇が約 1/25 に抑えられるとともに電圧上昇カーブをゆるやかに低減出来る。</p> <p>④対地電圧が抑えられることで公衆安全面でも雷害対策に役立つものである。</p> <p>以上のとおり、基礎の残置については、撤去費用の先送りと工期短縮を目的とするものではなく、既設風力発電所の一部を有効活用することで風力発電設備の耐雷性能を向上させることを目的としたものです。</p> |
| 2   | <p>シャドーフリッカーについても調査されているか疑問である。</p>                                                                                                                                                                | <p>風車の稼働に伴うシャドーフリッカーによる影響については、準備書の「第 10 章 10.1.6 風車の影」において、調査、予測及び評価を実施しております。本事業では、シミュレーションの他、樹木の繁茂状況や風車の影が住宅にかかる予測される時間帯の影の状況を現地で確認しております。</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
| 3   | <p>野鳥に対する配慮のなさが目立った。</p> <p>現場パトロールは月 1 回程度で、野鳥の死骸など全くしてないとの事。これが明電舎の方針かとあきれる。明らかな SDGs の欠落だ。</p>                                                                                                  | <p>既設八竜風力発電所では、国のプロジェクトへ協力しており、国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）の事業において、「ブレード・タワーへの接近・接触」に係る調査の一環として、専門調査員による死骸調査を実施しております。</p> <p>当該調査では、風車が建設されていない場所でも死骸が確認されており、沿岸部では自然漂着死骸が確認されることがあるといった貴重な知見を得ることができました。</p> <p>当社としては、今後も積極的に国や研究機関の調査に協力し、調査研究の一旦を担うことで、環境にも配慮しつつ再生可能エネルギーの導入促進に貢献してまいりたいと考えております。</p>                                                                               |

準備書について提出された意見の概要及び事業者の見解（3）

埼玉県熊谷市在住 C 氏

| No. | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                                              | 事業者の見解                                                                                                                                                                                                       |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | <p>コウモリ類について</p> <p>欧米での風力発電アセスメントにおいて、最も影響を受ける分類群としてコウモリ類と鳥類が懸念されており（バット&amp;バードストライク）、その影響評価等において重点化されている。</p> <p>国内でもすでに風力発電機によるバットストライクが多数起きており、確実に起きる事象と予測して影響評価を行うべきである。このことを踏まえて環境保全の見地から、本準備書に対して以下の通り意見を述べる。</p> <p>なお、本意見はそれぞれが関連していることから集約・要約しないこと。</p> | <p>ご意見は集約・要約せずに全文を記載致しました。</p>                                                                                                                                                                               |
| 2   | <p>1. 本準備書についてコウモリ類の専門家にヒアリングをおこなわない理由を述べよ。</p>                                                                                                                                                                                                                    | <p>現地調査により得られたコウモリ類の飛翔傾向と既設風力発電所における死骸調査の結果並びに死骸が確認された既設 18 号機付近の風車建設を回避した計画とした点を総合的に考慮し、コウモリ類への影響は小さいと判断しました。このため、専門家等へのヒアリングは行っておりません。</p>                                                                 |
| 3   | <p>2. 年によって異なる機種を使用したため、その設定によりパルス確認数の違いが大きく反映されている。すなわち D500X はインターバル録音したこと、SM4 はトリガー録音を行ったためである。これは明らかな調査設計ミスであり、再度、通年の音声調査を実施する必要がある。</p>                                                                                                                       | <p>現地調査の結果、予測にあたってコウモリ類の飛翔傾向を把握できていることから、再度通年の音声調査を実施する必要は無いと判断しております。</p>                                                                                                                                   |
| 4   | <p>3. (694) の「移動経路の遮断・阻害」において「改変は風車の設置箇所近傍に限られること、迂回するための空間も確保されている」と記載されているが、コウモリ類が風車を迂回することを示した具体的な根拠（本事業による調査の結果）を示すこと。</p>                                                                                                                                     | <p>コウモリ類は、エコーロケーションにより暗闇でも障害物を避けて飛翔できることが知られております。本事業においては、個々の風車間には約 360m の間隔があり、コウモリ類の個体サイズを踏まえると、迂回可能な空間が十分確保されているものと予測致しました。また、新設風車間隔は、既設風車間隔の約 180m と比較して 2 倍程度に広がることから、「移動経路の遮断・阻害」による低減措置として示しました。</p> |

| No. | 意見の概要                                                                                                                                                                                                                                          | 事業者の見解                                                                                                        |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5   | 4. (694) の「ブレード・タワー等への接近・接触」において「本事業において採用予定の風車機種のカットイン風速以下となる 3.0m/s 以下での確認が 6 割を占めていること、飛翔頻度が高くなる時期は 7 月～8 月頃に限定されることが示されている。」と記載されているが、限定的な期間にこそ稼働抑制（フェザリング、アイドリングやカットイン風速の調整）等の保全措置を実施し、バットストライクによる大量死を低減すべきである。                           | 既設風力発電所ではコウモリ類の死骸はほとんど確認されておらず、死骸が確認された既設 18 号機付近の風車建設を回避した計画としました。これらを総合的に考慮し、コウモリ類への影響へ十分配慮した事業であると考えております。 |
| 6   | 5. (694) の「夜間照明による誘引」において、「本種や餌資源の夜間照明に夜誘引（原文ママ）はほとんど生じないものと考えられる」と予測した科学的根拠（本事業による調査の結果）を示すこと。                                                                                                                                                | ライトアップを行わなければ、餌となる昆虫類が誘引されにくくなり、それに伴ってコウモリ類の誘引も減らすことができ、ある程度のバットストライクの低減効果が期待されるものと考えております。                   |
| 7   | 6. 死骸調査を既設風車において 1 週間連続（4/8 から 4/14）で実施しているが、ヒナコウモリ科の死骸が 4/12 に完全体で 1 個体確認されている（資料 1-16 から 17）。この死骸は 18 号基から 10m 程度の距離で発見されているが、死後経過時間が「1 か月以上」と記載されている。4 日前から調査を開始したにもかかわらず、1 か月以上前に死亡した個体が発見できなかったことは調査員の 4 日連続の見落とし、すなわち調査員の熟練度が低いためではないのか。 | 死骸調査は、十分な経験を積んだ生物調査員により実施しております。                                                                              |
| 8   | 8. 死骸調査で確認されたヒナコウモリ科の個体は完全体であることから種の同定は容易である。過去に準備書において種名を記載せず、評価書で重要種だったことを記載するという問題の多いアセスメントの事例があった（日本哺乳類学会「北海道檜山郡上ノ国町の風力発電施設における絶滅危惧種コヤマコウモリの保全に関する要望書」。すでに遅いが重要種に該当する可能性があることから直ちに種の同定を実施して、再度、予測評価を実施すること。                                | コウモリ類に精通した調査員が確認しましたが、死後経過時間は 1 ヶ月以上と考えられ、死骸の状態が悪かったため、種名及び死因の特定には至りませんでした。                                   |
| 9   | 7. (870) の事後調査について、本事業における事後調査は事前に専門家の意見を参考に計画・実施する必要がある。本準備書同様に未熟な者が独断で行うべきではない。                                                                                                                                                              | 既設風車で実施した事後調査では鳥類の死骸をしっかり確認できており、これまで同様、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」（平成 27 年 環境省）に参考に事後調査計画を検討しています。           |
| 10  | 8. 評価書および事後調査報告書を環境影響評価情報支援ネットワーク（環境省）において常時閲覧できる状態とすることは持続可能な環境保全に貢献することと考える。                                                                                                                                                                 | 評価書及び事後調査報告書の閲覧方法については、今後検討致します。                                                                              |

秋田魁新報社（令和3年10月22日（金））

風力発電事業に係る環境影響評価  
準備書の縦覧のお知らせ

「環境影響評価法」に基づき、（仮称）八電風力発電所更  
新計画に係る環境影響評価準備書を作成し、縦覧致しま  
すので、ご覧いただきますようお願い致します。

■事業者の名称／株式会社 エムウインズ八電  
■代表者の氏名／代表取締役 高橋 進一  
■事務所の所在地  
枝田部門…秋田県山本郡三種町大口字道台32-1  
管理部門…東京都品川区大崎2-1-1 Third Park Tower  
■対象事業の名称／（仮称）八電風力発電所更新計画  
▽規模…出力28,000kW（風力発電機の基数…7基）  
■対象事業実施区域／秋田県山本郡三種町及び男鹿市地内  
■関係地区の範囲／秋田県山本郡三種町、男鹿市及び大館村  
■縦覧の場所  
三種町役場（山本郡三種町錦川字岩谷子8）  
男鹿市役所（男鹿市錦川町船尾台66-1）  
男鹿市役所若美支所（男鹿市角間崎字家ノ下452）  
大館村役場（南秋田郡大館村字中央1-1）  
▽期間…令和3年10月22日（金）～令和3年11月22日（月）  
▽時間…8時30分～17時15分（土・日・祝日を除く）  
■住民説明会  
①若美農業者トレーニングセンター（秋田県男鹿市野石字  
大崎下1-45） 令和3年11月9日（火）18時より  
②三種町八電農村環境改善センター（秋田県山本郡三種町  
錦川字西本田2） 令和3年11月10日（水）18時より  
※なお、新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、や  
むを得ず入場制限等の対応を行う場合があります。また、  
受付時、発熱等の症状がある場合や、名簿への記入等にご  
協力頂けない場合は、入場をお断りさせていただきます。  
■その他  
準備書及び要約書の電子版は、ホームページからご覧にな  
れます。 <https://www.mechendata.co.jp/10/>  
■意見書の提出  
環境保全の見地からの意見ををお持ちの方は書面に事業名  
称、住所、氏名、意見（意見の理由を含む）を記入のうえ、  
縦覧場所に備え付けておきます意見書箱にご投函いただく  
か、問い合わせ先へ郵送ください（令和3年12月6日（月）ま  
で、郵送は当日消印有効）。

■問い合わせ先／〒144-8029 東京都品川区大崎2-1-1 Third Park Tower 株式会社エムウインズ八電  
担当…飯本 晃 田中 電話番号…03-6420-8507

賃金法違反となります。

問い合わせ先：  
秋田労働局労働基準部資金室  
(☎018-883-4266)

**公共職業訓練アビリティコース12月期生を募集**

●訓練科（定員）  
テクニカルオペレーション科（15人）

●訓練期間  
12月2日～

●訓練時間  
令和4年5月30日  
9時30分～15時40分

●会場  
ポリテクセンター秋田（湯上市）

●募集期限  
10月27日

●受講料  
無料

●応募資格  
ハローワークに求職申込をされた方で、新たな技術・技能を身につけて再就職を希望される方

※毎週木曜日に施設見学会を行っています。《雇用保険受給中の方は、就職活動として認められます》

申込・問い合わせ先：  
秋田職業能力開発促進センター（ポリテクセンター秋田）訓練受講者第一係  
(☎018-873-3178)

**風力発電事業に係る環境影響評価準備書の縦覧のお知らせ**

「環境影響評価法」に基づき（仮称）八竜風力発電所更新計画に係る環境影

響評価準備書」を作成し、縦覧します。

●事業者  
株式会社エムウインズ八竜代表取締役 高橋恵一

●対象事業の名称  
（仮称）八竜風力発電所更新計画

・種類 風力（陸上）  
・規模出力 2万8千kW（風力発電機：7基）

●対象事業実施区域  
三種町および男鹿市地内

●関係地区の範囲  
三種町、男鹿市および大潟村

●縦覧の場所  
三種町役場

●縦覧期間  
10月22日～11月22日  
8時30分～17時15分（土・日・祝日を除く）

●住民説明会  
11月10日 18時  
八竜改善センター

※なお、新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、やむを得ず入場制限等の対応を行う場合があります。また、受付時、発熱等の症状がある場合や名簿への記入等にご協力いただけない場合は、入場をお断りします。

●その他  
準備書および要約書の電子版は、ホームページからご覧になれます。(https://www.meidensha.co.jp/win/)

●意見書の提出  
環境保全の見地からのご意見をお持ちの方は、書面

に事業名称、住所、氏名、ご意見（意見の理由を含む）をご記入のうえ、縦覧場所に備えておられます意見書箱にご投函いただくか、問い合わせ先へご郵送ください（12月6日まで※当日消印有効）

問い合わせ先：  
株式会社エムウインズ八竜  
(☎03-6420-8507)  
〒141-6029  
東京都品川区大崎二丁目1-11 ThinkPark Tower

（仮称）秋田県八峰町および能代市沖洋上風力発電事業に係る計画段階環境配慮書の縦覧のお知らせ

環境影響評価法に基づき「計画段階環境配慮書」の縦覧を行います。縦覧では、環境保全の見地からご意見を提出することが出来ます。

●事業者  
東京電力リニューアブルパワー(株)

・出力 最大39万6千kW  
・事業実施想定区域 八峰町、能代市の地先海域

●縦覧期間・場所  
9月27日～10月26日（閉庁・休業日を除く）三種町役場

●その他  
事業者ホームページからご覧いただけます。(https://www4.tepco.co.jp/rp/business/wind\_power/kankyosassessments/happou\_index.html)



# 環境影響評価法」に基づき行う 近隣地域の風力発電事業に係る書類の縦覧について

「（仮称）八竜風力発電所更新計画に係る環境影響評価準備書」を作成し、縦覧いたしますので、ご覧いただきますようお願いいたします。

## 【事業者の名称】

（株）エムウインズ八竜（代表取締役 高橋恵一）

## 【事務所の所在地】

技術部門：秋田県山本郡三種町大口字釜谷32番1号  
管理部門：東京都品川区大崎二丁目1番1号  
ThinkPark Tower

## 【対象事業の名称】

（仮称）八竜風力発電所更新計画

▽種類 風力（陸上）

▽規模 出力 28,000kW（風力発電機の基数：7基）

## 【対象事業実施区域】

秋田県山本郡三種町及び男鹿市地内

## 【関係地区の範囲】

秋田県山本郡三種町、男鹿市及び大潟村

## 【住民説明会】

①会場名 若美農業者トレーニングセンター

（秋田県男鹿市野石字大場沢下1番地48）

令和3年11月9日（火）18時より

②会場名 三種町八竜農村環境改善センター

（秋田県山本郡三種町鵜川字西本田2）

令和3年11月10日（水）18時より

※なお、新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、やむを得ず入場制限等の対応を行う場合があります。また、受付時、発熱等の症状がある場合や、名簿への記入等にご協力頂けない場合は、入場をお断りさせていただきます。

## 【縦覧の場所】

大潟村役場生活環境課（南秋田郡大潟村字中央1-1）

▽期間 令和3年10月22日（金）

～令和3年11月22日（月）

▽時間 8時30分～17時15分（土・日・祝日を除く）

※電子版 <https://www.meidensha.co.jp/win/>

## 【意見書の提出】

環境保全の見地からのご意見をお持ちの方は書面に事業名称、住所、氏名、ご意見（意見の理由を含む）をご記入のうえ、縦覧場所に備え付けております意見書箱にご投函いただくか、問い合わせ先へご郵送ください（令和3年12月6日（月）まで。郵送は当日消印有効）。

## 【問合せ】

〒141-6029

東京都品川区大崎二丁目1番1号ThinkPark Tower

株式会社エムウインズ八竜 担当：波木井、田中

電話番号：03-6420-8507

大気・水質班 ☎018-860-1603

**(仮称)八竜風力発電所更新計画に係る  
環境影響評価準備書の縦覧を行います**

**【事業実施区域】**三種町、男鹿市

**【縦覧期間】**  
10月22日(金)～11月22日(月)  
8時30分～17時15分  
※土・日曜日・祝日を除く

**【縦覧会場】**男鹿市役所3階企画政策課、若美支所  
**【住民説明会】**日時/11月9日(火) 18時～  
会場/若美農業者トレーニングセンター



▲準備書・要約書の  
電子版はこちらから

※会場では、感染症対策のために入場制限などを行う  
可能性があるほか、発熱などの症状がある、名簿へ  
の記入にご協力いただけないなどの場合は入場をお  
断りします。

**【意見の提出方法】**  
書面に事業名称、住所、氏名、意見・質問内容を記  
入のうえ、12月6日(月)までに縦覧場所に設置してあ  
る意見箱へ投函するか、下記問い合わせ先へ郵送して  
ください。(当日消印有効)

**▶問い合わせ/株式会社エムウインズ八竜**  
波木井・田中 ☎03-6420-8507  
〒141-6029 東京都品川区大崎二丁目1番1号  
ThinkPark Tower

定している事業・イベント等が中止・延期になる場合があります。

17

## 準備書の内容

表紙・目次 (PDF:101KB) 

1章 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 (PDF:24KB) 

2章 対象事業の目的及び内容 (PDF:2,856KB) 

3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況 (PDF:8,059KB) 

3.2 社会的状況 (PDF:3,004KB) 

4章 計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果 (PDF:2,738KB) 

5章 配慮書に対する経済産業大臣の意見及び事業者の見解 (PDF:987KB) 

6章 方法書についての意見と事業者の見解 (PDF:329KB) 

7章 方法書に対する経済産業大臣の勧告 (PDF:175KB) 

8章 対象事業に係る環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法 (PDF:4,421KB) 

9章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法についての経済産業大臣の助言 (PDF:25KB) 

10章 環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法についての経済産業大臣の助言

10.1 調査の結果の概要並びに予測及び評価の結果

10.1.1 温室効果物 (PDF:1,211KB) 

10.1.2 粉じん等 (PDF:616KB) 

10.1.3 騒音 (PDF:2,237KB) 

10.1.4 超低周波音 (PDF:2,497KB) 

10.1.5 振動 (PDF:680KB) 

10.1.6 風車の影 (PDF:1,675KB) 

10.1.7 電波障害 (PDF:453KB) 

10.1.8 動物 (PDF:7,447KB) 

10.1.9 植物 (PDF:2,942KB) 

10.1.10 景観 (PDF:4,574KB) 

10.1.11 人と自然との触れ合いの活動の場 (PDF:471KB) 

10.1.12 廃棄物等 (PDF:66KB) 

10.1.13 専門家等からの意見の概要 (PDF:95KB) 

10.2 環境の保全のための措置 (PDF:405KB) 

10.3 事後調査 (PDF:141KB) 

10.4 環境影響の総合的な評価 (PDF:445KB) 

第11章 環境影響評価準備書を委託した事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 (PDF:22KB) 

第12章 その他環境省令で定める事項 (PDF:1,144KB) 

資料編 (PDF:4,387KB) 

(仮称)八竜風力発電所更新計画に係る環境影響評価準備書(要約書) (PDF:1,769KB) 

※印刷はできません。

## お問い合わせ先

株式会社エムウインズ八竜

住所：〒141-6029 東京都品川区大崎二丁目1番1号ThinkPark Tower

担当：波木井、田中

電話番号：03-6420-8507

お問い合わせ時間：土、日、祝日を除く9:00～12:00、13:00～17:15

検索

分野別

部署別

音声読み上げ

美の国  
あきた  
ネット  
秋田県公式サイト

サイト内を検索する

キーワード・コンテンツ番号を入力

Foreign language  
(Google Translation)

Selected Language

(仮称) 八竜風力発電所更新計画に係る環境影響評価の概要

2021年10月22日 | コンテンツ番号 45171

(仮称) 八竜風力発電所更新計画に係る環境影響評価の概要

| 項目名    | 内容               |                                      |
|--------|------------------|--------------------------------------|
| 事業名    | (仮称) 八竜風力発電所更新計画 |                                      |
| 事業者    | 株式会社エムウインズ八竜     |                                      |
| 事業の種類  | 風力発電所の設置         |                                      |
| 対象法令等  | 環境影響評価法          |                                      |
| 事業実施場所 | 山本郡三種町及び男鹿市地内    |                                      |
| 関係地域   | 三種町、男鹿市、大湊村      |                                      |
| 事業の規模  | 出力 28,000kW      |                                      |
| 配慮書    | 公表日              | 令和元年 1 0 月 4 日                       |
|        | 縦覧期間             | 令和元年 1 0 月 4 日～ 1 1 月 5 日            |
|        | 縦覧場所             | 三種町役場<br>男鹿市役所<br>男鹿市役所若美支所<br>大湊村役場 |

|     |              |              |                                                                                                                               |
|-----|--------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 方法書 | インターネットによる公表 | 公表           | 事業者ウェブサイト（公開終了しました）                                                                                                           |
|     |              | 意見提出期限       | 令和元年 1 1 月 5 日（当日消印有効）                                                                                                        |
|     |              | 知事意見         | 令和元年 1 2 月 1 8 日                                                                                                              |
|     | 縦覧場所         | 公告日          | 令和 2 年 6 月 1 0 日                                                                                                              |
|     |              | 縦覧期間         | 令和 2 年 6 月 1 0 日～ 7 月 1 3 日                                                                                                   |
|     |              | 縦覧場所         | 三種町役場<br>男鹿市役所<br>男鹿市役所若美支所<br>大湊村役場                                                                                          |
|     |              | 説明会の場所・日時    | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、説明会の開催はありません。<br>説明会にかえて、説明会資料が事業者ウェブサイトに掲載されております。<br>詳細は、事業者ウェブサイトをご確認ください。<br><a href="#">事業者ウェブサイト</a> |
|     |              | インターネットによる公表 | <a href="#">事業者ウェブサイト</a>                                                                                                     |
|     | インターネットによる公表 | 意見提出期限       | 令和 2 年 7 月 2 7 日（当日消印有効）                                                                                                      |
|     |              | 意見数          | 3 通（ 4 9 件）                                                                                                                   |
|     |              | 知事意見         | 令和 2 年 1 0 月 2 2 日                                                                                                            |
|     |              | 公告日          | 令和 3 年 1 0 月 2 2 日                                                                                                            |
|     |              | 縦覧期間         | 令和 3 年 1 0 月 2 2 日～ 1 1 月 2 2 日                                                                                               |
|     | 縦覧場所         | 縦覧場所         | 三種町役場<br>男鹿市役所<br>男鹿市役所若美支所<br>大湊村役場                                                                                          |

|         |                |                                                                                                                              |  |
|---------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|         | インターネットによる公表   | <a href="#">事業者ウェブサイト</a>                                                                                                    |  |
| 準備書     | 説明会開催日・場所      | ①若美農業者トレーニングセンター<br>(秋田県男鹿市野石字大場沢下1-48)<br>令和3年11月9日(火)18時より<br>②三種町八尾農村環境改善センター<br>(秋田県山本郡三種町鱈川字西本田2)<br>令和3年11月10日(水)18時より |  |
|         | 意見提出期限         | 令和3年12月6日(当日消印有効)                                                                                                            |  |
|         | 意見数            |                                                                                                                              |  |
|         | 公聴会開催日・場所      |                                                                                                                              |  |
|         | 知事意見           |                                                                                                                              |  |
| 評価書     | 公告日            |                                                                                                                              |  |
|         | 縦覧期間           |                                                                                                                              |  |
|         | 縦覧場所           |                                                                                                                              |  |
| 事業着手    | 事業着手日          |                                                                                                                              |  |
|         | 事業終了時期<br>(予定) |                                                                                                                              |  |
| 事後調査報告書 | 提出日            |                                                                                                                              |  |
|         | 公表方法等          |                                                                                                                              |  |






郵送先：〒141-6029 東京都品川区大崎二丁目1番1号 ThinkPark Tower  
株式会社エムウインズ八竜（担当：波木井、田中）  
電話番号：03-6420-8507

なお、投函箱へは、土・日曜日及び祝祭日は投函できませんので、ご注意ください。

(裏面にもつづきをご記入できます。)